

## 駐車制動装置能力試験

### 1. 総則

駐車制動装置能力試験の実施にあたっては、本規定によるものとする。

### 2. 試験項目

#### 2.1 能力試験

#### 2.2 制動効率試験

### 3. 試験条件

3.1 試験は、ローラ駆動型ブレーキテスタ（以下「テスタ」という。）を使用して行う。

3.2 試験自動車は、積車状態とする。

3.3 試験自動車の制動装置は、正規に調整され、適切な慣らしを行った状態であり、かつ、異常な熱履歴、水濡れ等の影響を受けていない状態とする。

3.4 操作力を加える部分は、握り又はペダルの中央部分とする。レバー式のもので握りの部分が明示されていないものは、先端から50mmの位置とする。

3.5 操作力は、レバー、ペダル又はハンドルの作動方向に加える。

3.6 試験は、全て車両の前進及び後進方向について行う。

### 4. 試験方法

#### 4.1 能力試験

4.1.1 試験自動車をテスタに乗せてローラを回転させ、操作力を加えないときの値を読み、これを初期値とする。

4.1.2 ローラを回転させておいて規定の操作力の範囲で駐車ブレーキレバー、ペダル又はハンドルを操作し、操作力を除いて制動力を保持した状態でテスタの値を読む。なお、操作力の最小読取りは5Nとする。また、制動力の最小読取りは50Nとする。

#### 4.2 制動効率試験

4.2.1 4.1.1に同じ

4.2.2 操作力を適当な量ずつ増しそれに対応するテスタの値を読む。なお、操作力等の読取りについては、4.1.2に同じ。

4.3 制動力及び制動効率は、下記の式により求める。計算はそれぞれ50N及び小数第1位までとし、次位を四捨五入する。

$$F = (F_1 - f_1) + (F_2 - f_2)$$

$$e = \frac{F}{W \times G}$$

ここで、

F : 制動力合計 [N]

F<sub>1</sub> : 左輪のテスタの読み [N]

F<sub>2</sub> : 右輪のテスタの読み [N]

f<sub>1</sub> : 操作力0kgfのときのF<sub>1</sub>の値 [N]

f<sub>2</sub> : 操作力0kgfのときのF<sub>2</sub>の値 [N]

e : 制動効率

W : 車両総重量 kg  
G : 重力加速度 (10m/s<sup>2</sup>)

5. 試験記録及び成績

試験記録及び成績は、付表の様式に記入する。

- 5.1 当該試験時において該当しない箇所には斜線を引くこと。
- 5.2 記入欄は、順序配列を変えない範囲で伸縮することができ、必要に応じて追加してもよい。
- 5.3 制動能力線図において、必要な場合には、操作力と制動力の関係を妥当な方法で直線的に延長することができる。

付表

駐車制動装置能力の試験記録及び成績

試験期日 年 月 日 試験場所 試験担当者

1. 試験自動車

車名・型式(類別) 車台番号

制動装置形式

車両総重量 諸元値 (W) kg 軸重 諸元値 (前軸) kg

実測値 kg (後軸) kg

実測値 (前軸) kg

(後軸) kg

タイヤサイズ 前輪 タイヤ空気圧諸元値 前輪 kPa

後輪 後輪 kPa

2. 試験条件

天候 気温 °C

3. 試験機器

4. 試験成績

(1) 前進

操作力 (N)	各輪の読み (N)		各輪の制動力(N)		制動力(合計) F(N)	制動効率 e	備 考
	左 F <sub>1</sub>	右 F <sub>2</sub>	左 F <sub>1</sub> -f <sub>2</sub>	右 F <sub>1</sub> -f <sub>2</sub>			
0	f <sub>1</sub>	f <sub>2</sub>	0	0	0	0	
→ 0							
→ 0							

